

【水の作文大賞】

じまんの水

熊本県

八代市立第八中学校

一年

田代

優羽

「日本一きれいな水、熊本県」そんな名前で投稿された動画を見た。そして、熊本は水に恵まれたところなのだと、誇らしく感じた。そこで、水に興味を持ち、自分が住んでいる宮地町について考えてみた。すると、たくさんのきれいな川や水路があることに改めて気づかされた。

私が登校している学校では、小学校の五、六年生と中学校一年生の三年生で、自分の住んでいる地域について勉強する「みやじ学」というものがある。その、みやじ学で、私は伝統である和紙について、十二人くらいのメンバーで調べた。その歴史は、江戸時代の初期に福岡から伝わり、現在までずっと続いている伝統工芸だと知った。和紙をすくにはきれいな水がたくさん必要である。そこで、きれいな水が流れる川や水路をたどった。たどっていくと、だんだん自然豊かな山に近づいた。そして、その水路は普段何気なく通っている登下校の道まで続いていた。その景色から、私は地域の方々はずっと昔から伝統である和紙作りを守るために、水路に流れる水をよごさないように大切にしてくれたことに気づき、とてもありがたく思った。

私が卒業した小学校では、卒業証書を自分で作るという行事がある。その卒業証書は、和紙だ。現在和紙をすく職人は一人だけしかないこと知り、とてもおどろいた。だから、そのような中で和紙をすく体験をさせてもらえたのは、とてもありがたいことで、忘れることの出来ない、良い思い出となった。和紙を作ってみて、水路からひいた水は冷たく、和紙をすいている間にとっても寒くなり、和紙作りが大変であることがよく分かった。

もし、水路を流れる水がにごっていたら伝統である和紙をすくことができなくなる。また、宮地に住むたくさんの生き物も生きていけなくなってしまう。しかし、宮地の水は何十年も前からすき通っていて、とてもきれいだ。それは、今まで宮地の川、水路を大切に守り続けてくれた

地域の方々のおかげだ。油や食器に残った調味料をふき取るのは手間だっただろう。それでも、宮地のきれいな川や水路、そして伝統である和紙を次の世代へとつなげるために頑張ってくれた地域の方には感謝の気持ちでいっぱいだ。他にも、宮地が自然豊かで雨がたくさん降る気候のおかげで、木々の栄養と共に水が川へ流れていき、きれいな水が成り立っている。

また、私の地元の宮地町の妙見神社では、毎年六月一日に「氷室祭」というお祭りが行われている。水に見立てたお菓子を食べて、一年間の健康や家内安全を祈るお祭りだ。このお祭りの起源は、三五〇年以上も前にさかのぼると言われている。江戸時代、八代城主として来た細川三斎という殿様が、妙見神社に参拝した時に、無病息災を祈って、東町の三室山にもった雪を神様に献上したのが始まりだと言い伝えられている。雪も水も水のひとつであるので、私の地元は水と昔から関わっていたことを知り、とてもうれしかった。

私は、自分の地域の水について学んで、これからも豊かできれいな水を守るために、私にできることはどんなことを考えてみた。例えば、油や調味料を水に流さず、ティッシュでふき取って、水を汚さないようにしたり、歯みがきやお風呂に入ったるときには、節水を心がけて、水を大切にすることができると。このようなことに、みんなが取り組んでいけば、きれいで豊かな水が保っていただけるだろう。そして、今度は私たちが次の世代へつなげていきたい。